

中央大学支部 中大技術士会

ニュースレターvol.21

会員の皆様へ

今年は寒波と大雪に見舞われ、とても厳しい冬となってしまいましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。日本経済も大きく変動しそうです。4月からの消費税増税の影響か、便乗値上げが目につきます。今後は「大不況が訪れる」と、多くの方が不安を感じております。今後の日本の未来のために、我々技術士はどうすれば良いのか？十分検討して頑張ってください。

本会では会員の皆様からの投稿をお待ちしております。中大技術士会のホームページ(<http://www.chuo-u-pej.org/>)から投稿用のフォームをダウンロードしていただき、投稿してみてください。それではニュースレターをお楽しみください。

内 容	ページ
巻頭言	2 ページ
■ 「脱サウ後の私の生き方」：中大技術士会 幹事 大澤 勇(機械部門)	2 ページ
活動報告	3 ページ
■ 幹事会	3 ページ
■ CO2環境対策研究会	4 ページ
■ 部会報告	4 ページ
活動計画	6 ページ
■ CO2活動計画	6 ページ
■ その他活動計画	6 ページ
エッセイ	7 ページ
■ 「技術士資格取得のすすめ」：大澤 勇さん	7 ページ
■ 「紅葉と雪景色の日光鬼怒川」：篠崎博文さん	9 ページ
技術士第一次試験合格者から	10 ページ
■ 「建設コンサルタントから技術士へ！」：今野 武さん	10 ページ

■ 「脱サラ後の私の生き方」： 中大技術士会幹事 大澤 勇（機械部門）

このニュースレターが皆さんの手元に届くのは、ようやく春の気分が少し感じられる時期である。

ここでは、技術計算に関して私が学校を卒業し、会社に入社した 1966 年(昭和 41 年)頃を振り返りながら、脱サラ後の技術屋としての私の生き方をみてみたい。

学生時代から入社後数年間、計算は一般に計算尺で行っていた。計算尺をご存じない方もいるかと思いますが、対数の原理を利用したアナログ計算用具である。固定尺、滑尺及びカーソルからなる竹製の極めて精密なもので、当時の価格で 4,000 円位した。当時の初任給が 20,000 円位だから、かなり高価であった。

ただこの計算尺は答として示されるのが有効数字 3 桁程度の概数である。なにしろ、竹尺に刻まれた目盛を読むのであるからこの程度が限度である。また、桁数を知るために簡単な数値を代入した手計算を別途行う必要がある。これでトライアル・アンド・エラーの計算を行うのである。このため、少し複雑な計算には膨大な時間を要した。今では考えただけでも気が遠くなる様な計算を当時は行っていたのである。また、面倒な計算の結果にやっとの事で到達した最終結果も顧客側の都合で、にべもなく変更される事もあった。顧客窓口担当技術者はそのたびに猛烈なブーイングを受けたものである。

当時は使えるシミュレータも少なく、自前で作るか、当時少なかったソフト会社が作った”手作りソフト”を購入するしかなかった。しかしこれらソフトも使い勝手もはなはだ悪かった。その当時は、『ソフトを購入するのは子犬を飼うのと同じで、これを駄犬にするも、忠犬にするもユーザー次第である』と言われたものである。それ程使うのに気を使ったものである。またハードの面では当時最先端のスーパーコンピュータ IBM360-195 などは演算時間 1 時間当たり 125 万円位したと記憶している。それでも、手計算では到底不可能な計算を瞬時にしてくれるシミュレータを高価だとは思わなかった。やがて、汎用シミュレータの機能も充実し信頼性も向上した。今や先ほどの駄犬・忠犬のような自前のシミュレータを準備する事も少なくなった。

今では私は主に依頼先の組織内で働く個人自営業者である。大型のシミュレータを使う事もなく、計算は表計算ソフトで十分事足りている。逆の見方をすれば、大型のシミュレータを使わなければ不可能な計算や、汎用機器で既に立派な設計ソフトが存在するものは私の所掌範囲外である。計算方法が十分確立されていない分野や、多忙な現役技術者が行うには時間がかかり、その時間が惜しいような雑計算が私の所掌である。しかし、この雑計算領域は言われれば当たり前のチョットした経験や雑学が必要で現役技術者が案外でこずるところなのである。この様な隙間が、私がいま生きている技術分野である。ある程度経験をつんだ技術者なら、私がいるような隙間領域が参入し易いと思う。今年 72 歳になる私が流れ着いた領域はこの様な所である。

古い話が脱線気味に推移し、結局言いたいのはこれだけかい？・・・と思った方もあったかもしれない。温故知新と言う言葉があるが、これに免じて御容赦願いたい。

尚、写真は自営業を始めて間もなく、北海道別海町で私が携わった研究開発装置隣接の牧草地の 4 月初旬頃である。同じ場所で緑が爽やかな 7 月撮影の写真がエッセイにあります。



■ 幹事会

本会では概ね月に1度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。

通常、中央大学駿河台記念会館の学員会役員室か会議室で行います。役員、幹事以外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。役員・幹事一同お待ちしております。下記に幹事会の内容を報告します。

行事名	開催日程	活動概要
平成25年度 第4回幹事会	10月4日（金） 18：30～20：00	・(1)総務部会から、①ホームカミングデー支援、②理工白門祭支援、③名簿管理について、内容変更は本人からの通知を基本とする、④大学技術士連絡協議会合同講演会を10月19日東京都市大学で行う報告。 ・(2)広報部会から、①サーバーの運用と更新に関する説明、②ニュースレターvol20を作成中、③日本技術士会・男女共同参画委員会にリンクを提案し承認した。 ・(3)企画部会から、①10月25日精密機械工学科松本先生の講演会予告、②法曹会との交歓会を12月2日実施で調整中、③ホームカミングデー支援学員会に申請した、④理工白門祭の進捗状況報告があった。 ・(4)大学支援部会から、①一次試験模擬試験を9月21日実施、申込み127名、受験71名。②講師派遣、今年は技術者倫理に14名、科学技術と倫理に2名派遣した。次年度講師を募集中。 ・「CO2環境対策技術研究会」から、①9月7日報告会(総会に相当)を開催、②第18回研究会をJTで開催予定。 ・中大技術士会は来年10周年を迎える。その行事に何を行うかを幹事が1企画を次回幹事会までに提案すること。
平成25年度 第5回幹事会	11月7日（木） 18：30～20：00	・(1)総務部会から、①ホームカミングデーは台風により中止となった。②理工白門祭を11月2～4日行い好評であった。③講演会を10月25日行った。④名簿管理：1名の入会者があった。④大学技術士連絡協議会合同講演会を10月19日東京都市大学で行った。 ・(2)企画部会から、①10月25日精密機械工学科松本先生の講演会を行った。第3回講演会を平成26年1月、都市環境学科國生先生を講師に招いて実施する予告、同年5月末、人間総合理工学科石川先生による特別講演を予告。②法曹会との交歓会を12月2日実施する。③理工白門祭に参加した。 ・(3)広報部会から、①ニュースレターvol.20wo10月11日発行した。Vol.21を平成25年1月発行予定であるので、執筆依頼者は協力を。 ・(4)大学支援部会から、①「技術者倫理」が後期になった。②各学科の先生との協力について報告があった。(都市環境学科：國生先生、精密機械工学科：中村先生、電気電子情報通信学科：橋本先生)

行事名	開催日程	活動概要
		・「CO₂環境対策技術研究会」から、①報告会を10月3日行った報告があった。②第18回研究会を平成26年1月23日、JTで開催する。 ・ニュースレター10周年記念号に関する基本計画を小林副会長から説明があった。詳細は次回幹事会で決定する。 ・第10回定時総会を5月31日(土)実施する。

■ CO₂環境対策研究会

行事名	開催日程	活動概要
H25 第1回幹事会 参加者 6名	H25年10月3日(木) 18:30~20:00 中央大学後楽園校舎	第4回報告会の報告 第18回研究会の企画 話題提供に代えて、大石副会長から中尾幹事提供の以下の資料3点の説明をして頂いた。 アミンを使った炭酸ガス吸収に関する論文である。 1) 石炭火力発電所排ガスからの CO₂ 分離回収パイロットプラント試験 2) 佐賀市「清掃工場バイオマスエネルギー利活用促進事業」への参画について 3) 「ブルガリアにおける超臨界石炭火力発電及びCCSプロジェクトの案件形成調査」について—NEDOの「石炭高効率利用システム案件等京成調査事業」の委託先に選定—
H25 第2回幹事会 参加者 5名	H25年12月19日(木) 18:30~20:00 中央大学後楽園校舎	第18回研究会の応募状況 第19回研究会の企画 話題提供：林幹事「商品の開発（上市）を短縮するには」
第18回研究会 研究会参加者 16名 交流会参加者 15名	H26年1月23日(木) 13:00~16:00	日本たばこ産業(株)(JT) 北関東工場の見学 講演：「北関東工場の地球環境への取り組み」 北関東工場技術部長 熊谷功様 交流会：17:00~18:30 宇都宮駅周辺で実施

■ 部会報告

○企画部会

項 目	内 容
中大技術士会 H25 第 2 回講演会 参加者 講演会：20 名 交流会：15 名	日時：2013 年 10 月 25 日（金）講演会 18：00～19：30 交流会 19：30～20：00 会場：講演会：後樂園校舎 2221 号室、交流会：5 号館地下生協食堂 講師：中央大学理工学部精密機械工学科 松本 浩二教授 講演：「食品冷蔵を目的としたオゾンマイクロバブル含有氷の効率的製造方法について」
法曹会との交歓会 参加者：技術士会 13 名 法曹会 12 名 会計士会 2 名	日時：2013 年 12 月 2 日（月）講演会 18：30～19：45 交流会 20：00～21：30 会場：講演会：駿河台学員会 650 号室、交流会：御茶ノ水 LEN 講師：弁護士 伊東 芳生 先生 講演：「交通事故紛争における事故原因の技術的な説明」

○広報部会

項 目	内 容
サーバー運営	① メーリングリストおよび Web 名簿のメンテナンス実施 ② ドメイン名、サーバー利用の更新手続き完了。
ニュースレターの発行	① ニュースレターvol.21 の作成および発行。 ② ニュースレターvol.22 を中大技術士会創立 10 周年記念号として企画を立案し、3/20 原稿締め切り、4/30 編集完了を目標に作業着手。
HP 新規掲載	① ニュースレターvol.20 の掲載 ② 第 3 回テクノロジー懇談会開催案内掲載 ③ 平成 25 年度中大技術士会・中大法曹会交歓会開催案内掲載 ④ 平成 25 年度第 3 回中大技術士会講演会開催案内掲載 ⑤ CO2 環境対策研究会第 18 回研究会開催案内掲載
会員の皆様へのお願い	① 就職、転勤、転職、転居等により連絡先が変更になった場合、幹事会宛てにご一報をお願いします。詳細はホームページ「入会のご案内」をご参照ください。連絡先：toiawase@chuo-u-pej.org ② ニュースレターへの会員の皆様らの投稿をお待ちしています。 近況報告、受験体験談、2020 年東京五輪への期待、何でも構いませんので、積極的な応募をお願いします。

○大学支援部会

項 目	内 容
「科学技術と倫理」講師派遣	①平成 26 年度も 2 名の講師を派遣します。 ②派遣講師名を大学に通知し、現在、大学の事務が進行中となっています。
「技術者倫理」講師派遣	③平成 26 年度も 14 名の講師を派遣します。 ④平成 26 年度は、後期の講義となりました。 ⑤派遣講師名を大学に通知し、現在、大学の事務が進行中となっています。
「低緯度太平洋ソーラーセル帆走筏発電システムの成立性」研究会	①平成 25 年度は、講演会など 5 回の研究会を実施しました。 ②次回の 6 回研究会は、平成 26 年 3 月 8 日に行う予定です。

活動計画

■ CO2活動計画

行事名	開催日程	活動概要
H25 第 3 回幹事会 参加者	H25 年 2 月 27 日（木） 18：30～20：00 中央大学後楽園校舎	第 19 回研究会の確認 第 20 回研究会の企画
第 19 回研究会	H26 年 4 月 18 日（金） 中央大学後楽園校舎予定	講演：「CO2 分離・回収・活用等の現状と 将来展望並びに課題」 詳細は後日 HP に掲載します。

■ その他活動計画(行事予定)

行事	日程	内容
H25 第 8 回幹事会	H26 年 3 月 14 日（金） 18:30～20:00 駿河台記念館	・各部会報告 ・10 周年記念誌 ・その他
H26 第 1 回テクノロジー 懇談会	H26 年 4 月開催で調整中	発表（テーマ調整中）をもとにした自由討議
中大技術士会 H26 第 1 回講演会 総会後の 10 周年記念特別 講演として開催	H26 年 5 月 31 日（土） 13:30 開場予定 中大後楽園校舎予定	講師：中央大学理工学部人間総合理工学科 石川 幹子教授 演題未定
技術士試験合格ガイダンス	H26 年 5 月 31 日（土） 12:30～13:30 中大後楽園校舎予定	・合格のための勉強法 ・中大技術士会幹事、現役技術士との交流

今回は、本会幹事の大澤さんと篠崎さんからの投稿があります。会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

■ 「技術士資格取得のすすめ」： 中大技術士会幹事 大澤 勇（機械部門）

私の経験の一端をお話する事で、中央大学出身の技術者、または在学中の将来の技術者が技術士試験に挑戦する気になっていただければ幸である。

ところで私は学校時代から勉強が苦手で成績も良くなかった。それが71歳の今でも技術者の末席で何とか仕事をしていられるのは、いつも“物”の近くに居られた為だと思っている。もともと机上で理論を組み立てるなど頭を使うのが苦手で、“物”を見て初めて理解できる、その手の頭脳の技術屋なのである。



●会社勤め最後の頃 古い話で恐縮だが、私が会社勤めをやめた1999年は『失われた10年』の末ごろで、とても不景気だった。1990年には国際競争力世界一であった日本の産業が、その後20年間で20位後半まで後退してゆく、まさにその真最中にあったのだった。当時私は某電機機器製造会社に所属し、燃料電池発電装置の開発に携わっていた。その燃料電池も近い将来、従来の発電装置と競合が出来るまでには育ちそうもない事が見え始め、会社もこの金食い部門の縮小を考えはじめていた。

客は『燃料電池が高効率で環境に良いと言っても、屋台でテキヤが使っている携帯型発電機と電気にかわりはないではないか、それなのにこの価格はなんだ！』と言わんばかり、こちらとしては言いたい事は山ほどあるが、極言すればその通りである。

●そして退職 40歳過ぎでの転入社で、その入社目的が燃料電池用改質装置(都市ガスなどを水素に改質して燃料電池に供給する装置)の開発で、当時57歳であった私はまずリストラの対象になった。退職条件を人事担当に聞いてみると、それが案外悪くないように思えた。そのうえ自分の時間が持てる。リストラも案外魅力的ではないか！これにのらない手はないと考え、後先の事も考えずさっさと会社をやめてしまった。

ところが当然の事だが、57歳から遊んで暮らせば退職金もすぐ底をつく、またしかるべく蓄えもない困った状態に直面した。さて何をしようかとあらためて考えてみると自分が携わってきたプロセスエンジニアリング(化学工学分野)は案外裾野が広い。今までと同じ仕事はできなくても広い裾野の一部で働けるのではないかと、機器を組み合わせ装置を作る自分の知識はあらゆる分野にも役立つのではと考えた。今でも思いだすのだが、技術士の口頭試験で試験官が『あなたの携わってきた石油精製や燃料電池などは大企業だからできる分野で、あなた個人や中小企業には無用の技術ではないか？』と私が上記の持論を展開するのに格好の質問をしてくれた。また、『退職後、受験とは珍しいですね』と言われたので、『退職後なのでますます技術士資格が必要なのです』と答えた。

●遅まきながら自営業者へ ところで、広い裾野で働く為にはまず、仕事をくれる相手が自分の力を認めてくれなければ始まらない。当時の私は公的資格を何も持っていなかった。失職して暇ができたのと、雇用保険が1年間もらえる(当時はそうだった)のを機に勉強を始め、幸いにして技術士と公害防止管理者『大気1種』と『水質1種』を60歳前に取得できた。そして2001年

に憧れの自営業者として幕張西税務署に登録した。登録は近所で税理士事務所を営んでいる経済学部出身の先輩に頼んだ。屋号『大澤技術士事務所』と登録し、“いよ、所長！様子がいいよ！”とその先輩に言われた時の気分は、経営実態ゼロとは言え気分がよかった。ちなみに、その先輩は中大落語研究会で活躍し、“幫間”(宴席に出て客の遊びに興を添えることを職業とする男達で“たいこ持ち”とも言う) を演じるのを得意とする人である。

私は今年 72 歳になってしまう。安価で手に入るシミュレータと表計算ソフトと言う便利なツールのお陰で何とか仕事をこなしているが、若い頃の根気は失せてきた。しかしもう少し頑張るつもりではいるが、顧客に“このおじさん少し焼きが回ったな”と思われたら残念ながら引退である。

技術士法によると技術士とは、『科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者をいう。』とある。私の仕事はこの様な立派な仕事とは言えないが、資格を自分の能力の裏付けとして営業的に使うのものの一つのやり方である。期待した結果を出せると相手に思わせる事が仕事を得られる条件なのだが、当方の技量をはかりかねている相手に資格を示しその気にさせて、とにかく仕事を貰わなければならない。同じ資格でも“博士”は取得に相応のお金と時間がかかるが“技術士”はエンジニアの仕事で稼ぎながら経験を重ね、物を考え抜く力をみがけば、あわせて数万円の受験料と登録料があれば誰でも取得の可能性があるお勤めの国家資格である。博士と技術士の資格取得の過程の違いは大学の昼間部と夜間部に似ている。実経験がなくても、頭だけで取れる博士より、経験がないと受験すらできない技術士のほうが実用的でよいと私などは思うのだが。

●**えせ資格商売に注意を** また資格にもいろいろあるが、資格を取らせて金を儲けるのが目的と考えざるを得ないのもあるので注意が必要である。この手の資格に限って高額なわりに短期間の講習を受けると、かたちばかりの認定試験があり資格が付与される。そして、その後何のケアもないのに毎年高額の資格維持費を請求されると言う訳である。この様な資格に限って、資格を生かす仕事は殆どないのが実情である。資格を商売にしている業者を儲けさせるのが落ちである。私もこの手の資格を取得したが、あとから気がついて維持費納入をやめ資格を放棄した。少なくとも試験を経て能力を認定されているのに、さらに毎年、資格維持費を払わないと資格が消滅するのは、資格消滅をちらつかせて金銭を取り続ける一種の悪徳商売である。

考えてみると、私は会社所属中には石油精製装置のプロセス設計に 20 年、燃料電池発電装置開発に 15 年、会社を辞めてからは北海道でバイオマス発電装置の開発に 7 年、さらに地熱発電装置の開発に 6 年と、開発の必要性が認識されたのは古いが、なかなか普及しないと言う意味での『新しい仕事』を随分させてもらった。また、昨年の 7 月から専門外とも言える浄水場建設の監理技術者の仕事も得た。これは顧客の要求仕様にろ過器、ポンプなど機械分野を受注する事業者は機械部門の技術士を監理技術者として専任させなければならないとある為で、まさに、技術士資格が仕事を与えてくれた例である。

●**振り返ると** 私は技術の世界をふらふらと斜め歩きをし、人様に胸を張れるような立派な成果もなく、世間一般に言う出世とは無縁であった。それでも私は本当に運よくほとんど途切れる事なく、次々と興味深い仕事に恵まれ有難い事だと思っている。時として、人には自力では何ともし難い、運、不運があるが、もしかすると退職後すぐにとった技術士の資格が、その後の運を呼んだのではと考える事にしている。技術士を神社の開運札と同等に考え、はなはだ不謹慎と言われるかもしれない。あるいは、憂慮すべき事態にも気が付かずのんびり暮らす者を揶揄する言葉に“極楽とんぼ”と言うのがあるが、私はその部類の”幸せな人間”であるのかもしれない。

京都の公家のような名前でおばさん達に人気の“綾小路何とか”なる漫談家風に言えば、『私が仕事を続けられているのも単なる偶然の連続です』となるのかもしれないのだが。

最後は運だの偶然だのとおかしい話になってしまったが、技術士資格おかげで人生の黄昏近くになっても、もう少し頑張ろうと考えるようになり、また長く技術の仕事が続けられて幸せだと思っている。

私の話は意欲的で野心満々の人には、“年寄りの茶飲み話”とみられたかもしれない。しかし、今後日本を含む世界はかつて経験した事のない高齢化社会を迎える事を思えば、各個人の健康状態を考慮した能力と各自の希望に応じて高齢になっても働く社会になって行かざるを得ないと考えている。足取りは覚束ないが一貫して技術者として長く働いてきた私の例は、一つのモデルケースになるかもしれないと密かに思っている。

以上で私の話は終わりですが、少しでも技術士を目指す人(可能なら私が取得したより 20 年程度早く)が増えてくれれば、望外の幸せです。

写真は会社退職後、北海道別海町でバイオマス発電装置開発に関わっていた時、隣接の牧草地で7月に撮影したものです。同じ場所でまだ雪が残る4月上旬の写真が巻頭言にあります。

■ 「紅葉と雪景色の日光鬼怒川」：篠崎博文（機械部門）

整体師として初めて受験した技術士第二次試験。この年は東日本大震災が発生し、日本中が厳しい環境下に置かれた年でもありました。私自身も母親の介護、そして合格を待っていたかのように倒れ、そして逝ってしまった父親・・・

技術士としては本当に苛酷な出発経験をしてきました。そんな中趣味の旅行は唯一の楽しみでした。11月に高校の同級生達と訪れた日光は、紅葉真っ盛りで、多くの観光客で賑わっていました。そんな中でも探してみると、静かなお店はあるものです。小さな日本料理店で食べた「湯葉定食」は値段もお手頃で、級友たちと楽しい会話に花咲かせた有意義な時間でした。

そして一か月後、今度は地元の先輩に鬼怒川温泉に誘われました。6人での一泊旅行。泊りがけの旅行なんて何年振りか？

この日は冬型の気圧配置が強く、朝起きたら一面雪景色でした。ホテルの人が「こんな現象は初めてです。」と言われていました。

今年の冬は本当に寒くて大変です。会員の皆様くれぐれもご注意ください。



日光湯葉定食



鬼怒川の雪景色

このコーナーでは、技術士一次試験合格者の方に受験の動機、勉強方法、技術士への思い等について書いていただきます。今回は、法学部政治学科を卒業された今野武さんの体験談です。

■ 「建設コンサルタントから技術士へ!」: 今野 武さん(環境部門)

1. 一次試験を受験するに至った経緯

私は現在まで自営業をしております。業種的には将来を考えるととても安泰しているとはいいい難く、将来に対して漠然とした不安を持っておりました。そこで、55歳位で設備関係の仕事をしながら自営業をしようと考え、必要な資格を一気に取りました。但し、それまでにある程度の実務経験が必要であろうと考え、約10年間で短期の派遣等でコツコツ実務経験を積むつもりでした。



そんな折、短期で総合建設コンサルタント会社の設備管理・保守の仕事に従事しました。後日、大変ありがたいことに、その会社からお声をかけて頂きお世話になることにしました。お世話になるにあたり、その会社から将来的に技術士の資格を取って欲しい、と要請されました。「技術士」という用語を聞いたのはそれが初めてでした。またこの要請が一次試験を受験するきっかけになりました。

2. 受験準備と受験

私は文系だったこともあり、理系の知り合いは皆無に近く、まして一次試験合格者などいるわけがありません。先日の中大技術士会の会場である理工のキャンパスも、初訪問で人に聞きつつ行ったくらいです(笑)

取り敢えず書店に行って、過去問と技術士試験制度の解説書を買いました。その解説書には過去問をしっかりとやることと、一次試験は環境部門がお勧めと書かれていました。そこで私は解説書の指南に素直に従おうと思い、環境部門を専門科目にしました。勉強方法も過去問中心の勉強にしました。過去問を解いていて、平成25年度の適正試験は難化するんじゃないかな・・・と思い他の科目と同じように力を入れました。過去問とそれに付随した知識の強化の為に、各省庁や団体のHPでその確認等もしました。あと、マークミスが致命傷になる事がある為、ネットから予想マークシートをDLしてきて直前期にマークを塗り潰す・綺麗に消す・マークした数を数える、なんて作業も真剣にやりました(笑)。

適正試験は予想通り難化していました。一応対策はしていたのですが、想定外の問題もあり少し焦りました。結果的に適正で大きく躓くことはなかったのですが、冷や汗ものでした。専門科目は、例年通りの感じで過去問を中心にした勉強で良かったと思います。基礎科目は解析・化学等、勉強中から何度も心が折れそうになりましたが、過去問と類似した問題があり救われました。

3. 二次試験に向けて

まずは、きちんと建設コンサルタントの業務に取り組み、修習技術者として業務経験を積み重ねることだと考えております。その上で中大技術士会の皆様のご指導を仰ぎながら、二次試験に向けた勉強を進めていこうと思います。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 ⇒ toiawase@chuo-u-pej.org
2013年3月号 中大技術士会 広報部会 発行